

第3回 名張市総合計画審議会 議事概要

日 時：平成27年6月5日（金） 午後2時～午後4時

場 所：名張市役所 庁議室

委員出欠状況：全員出席 ※川口委員早退

事務局：企画財政部 森岡部長、総合企画政策室 山下室長、中重

1. あいさつ

（会長）

本日、基本構想素案の第4章、第5章を審議します。これまで議論してきたことは、大枠の背景的事や大きい話を中心であった。今回、いよいよ具体的にどんなまちづくりを目指すかというところをご審議いただくこととなります。前回までと比べると、もう少し具体的なイメージを持ちながら審議いただきたいので活発なご提案をいただきたい。

さて、今、この審議会において基本構想について審議しているが、これと同時に事務局では基本計画の作成を進めています。この進行状況について事務局から説明いただきたい。

（事務局）

まず、今回資料として配布しました第1次基本計画（骨子案）については、去る5月28日の市議会全員協議会にお示しさせていただき、一定の理解を示していただいたところです。この基本計画に対しては、審議会でご審議いただくものではありませんが、参考としてお配りしました。なお、これまでも基本構想を審議いただく中で、具体の取組についての提案もいただいておりますが、基本計画の策定を進めていく中で、参考とさせていただきたいと考えています。

続いて、本日お配りした第1回、2回の議事概要は、皆様からいただいた意見をほぼそのまま記録していますので、今後の審議の参考としていただきたい。近日中に、名張市のホームページに掲載する予定です。

最後に、前回ご意見をいただきました、『新・理想郷プラン』や基本理念に掲げる“福祉の理想郷”というフレーズに関しましては、現行計画との継続性や市長の意向などを踏まえたうえで定めたもので、今年2月の市議会全員協議会においてもご理解をいただいております。また、基本構想の構成、取組の方向性や3つの重点戦略に関しましては、同様に考えており、変更いただけないものとしてご理解をいただきますようお願いいたします。事務局からは以上です。

（会長）

事務局からありましたように、ここで審議を行う基本構想については、既に議会で大枠の了承いただいているということです。前回、私は副題を考えてきてほしいと申し上げたが、その点については、今日審議を行う第4・5章、あるいは、先ほど事務局からも説明があった基本計画の中で活かしていく部分もあるかと思えます。

それでは、まず第4章政策の大綱の第1節から審議を進めることとし、どなたからでも結構ですのでご意見、ご提案をお願いします。

2. 基本構想（素案）の審議

（委員）

自然派の人間からの意見ですが、「美しい自然に包まれ快適に暮らせるまち」で、農林業も含めて、自然は放っておいてあるものではない。この内容を見ると積極的に作っていくものという感じではなく、ただ存在するというような書き方になっている気がする。自然は皆で守っていかないといけない。積極的に関与するというを書いてほしい。

（会長）

今の書き方では弱いということですね。

（委員）

「都市環境の計画的に整備・維持すること」ということでなく、いわゆる自然といわれるもの、農地、林地、田畑を含め、積極的に整備をすることによって、結果的に快適な自然に包まれるようになるべきです。名張はこの部分に新しい人を定着させるネタを持っていると思う。その結果として、まちなかに住んでいる人も享受できると思う。

（会長）

該当する部分は「良好な地域環境の保全と環境負荷の少ない社会の創造に取り組みます」だと思いますが、「良好な地域環境」について、もう少し、言葉の案など何かありますか。

（委員）

そこまではないが、地域環境は自然が関係なくても都市環境も社会環境もあります。名張市の売りは自然環境、すごく高いポテンシャルを持っているので、地域環境という包括的な言い方をせずに、自然環境にもっと積極的に関与して行くような表現にしたい。即答できないが次回までになら。

（会長）

今回は一旦修正案を提示したいと思っているので、私の方も一緒に考えたい。自然環境に対してもう少し積極的な姿勢を出していくべきだとの意見とします。

（委員）

5番目の「自主・自立市政経営」の内容を教えてください。

（会長）

これに関しては、おそらく主語は名張市だと思ったのですが、少し主語が見えにくいと感じていた。事務局としてどういう意図でつくられたか説明願います。

（事務局）

今日、お配りした基本計画骨子案の12から13ページを見てください。文言は今後整理するのいたしまして、具体には（2）の②成熟社会に対応する行政運営、また、③持続可能な財政運営に記載しているような考え方です。さらに具体的な部分は、基本計画の策定に併せて示していきます。

（会長）

ということは、やはり主語は名張市、或は、名張市政はということでもいいですね。

（事務局）

総合計画は、行政と市民とがともに取り組む共有の計画です。市民といいますのは、住民のみでなく、関係団体、企業や事業者、NPO、場合によっては市外から訪れる方なども含めて考えており、主語は、あらゆる主体と考えていただければと思います。

(委員)

それはわかるが、市政が自主・自立するということは考えにくく、主語が市民であれば、自主・自立して勝手にと捉えられるのか。何か違和感がある。

(会長)

私も、ここは読みにくいと思っている。考え方として、行政がすべての行政サービスを提供できるわけではなく、地域や市民のご尽力でしていただかねばならないこともあるし、市民と行政が協働して取り組むといったことを強調する意味で“自主・自立”という言葉を使ったのかなと思う。もう少し考える必要があると思います。

前回までの議論の中で、協働の考え、あるいは地域で自立してやっていく、あるいは全て行政任せにするのではなくて市民がやれる部分は市民として、また、団体と連携してやっていこうという姿勢は、委員の皆さんの共通した考えだと理解している。

(委員)

ここの委員の仕事がよくわからなくなっている。僕は文言にまで口出しできるのだと思い、僕なりに書き直してみようと思っていた。

というのは、今のところで、「市民の満足度を重視した質の高い行政サービスの提供に努める」というのは「市」です。しかし、途中から「ともに考え行動し」と、突然に協働体になっている。文章が長いので主語か述語かわからなくなっている。主語一つに対し述語一つでセンテンス終えたら混乱はしない。もっと言えば、全ての章の最初に名張は協働でまちづくりをやっていくと書いておけば、全部それに読めると思う。もっと細かい事を言えば、運営と経営が並んで出てくる。そのイメージが違っていたらと思う。

(会長)

“運営”と“経営”という言葉の使い方というのは、なんとなくニュアンスを一定程度了解しているだろうということで今までやってきたところがあるのかもしれない。委員の重要な指摘は、市としての立場、市民としての立場、団体としての立場、どういう立場で立ち向かうかということ。最初の方に持ってきたほうが良いということ。まちづくりの基本目標の1から5をするには、まず市民はこうあるべきだということ、例えば1番の前のところに持ってくるとか、反映できるかどうかは別ですが、そういうことを考えてみてはと思う。

他方では、地域経営というか、もっと言えば、サステイナブル（維持可能）な市政運営を続けて行くということを強調したいがゆえに、5番のところでも市民も公のところにかかわってほしい、ということも理解ができますので、そのところも考えてみたいと思います。

(副会長)

1から4番は市民全体の中で、5番は地域との協働の部分で、現在名張市が推進している15の地域で、自主・自立した“小さな公”を求め、“小さな公”が地域でいろんな努力をする。そしてそれに“大きな公”が支援や協力する。地域の自主性を上げていかないと、市がひっくり返ってしまう。コミュニティビジネスなど、これからは地域でできることは地域でやっていく時代になってきている。それを加味していかないと、市全体の大きなところだけでは、まちづくりはできないわけで、そのことがここに挙げていただいていると思う。

(事務局)

その点について、基本構想の19ページの施策体系表をご覧ください。この図に表わすとおり、1から4の取組を、5に掲げる地域づくり組織や様々な市民活動との協働、また、市の財政といったものが下支えをしているという考え方です。このあたりを明確に表現できるよう、お知恵を貸していただければと思います。

(委員)

地域経営と市政運営はどう使い分けているのか。

(事務局)

この計画において“地域”というのは市内15地域を指すこととしていますが、ご指摘のとおり、市全体を地域としている箇所がある。混在をしておりますので整理したい。

(委員)

大きくとらまえてという言葉と、小さくとらまえてという言葉が混在している。少し分かりにくいので、本来の主旨が伝わるよう改善できればと思う。

(会長)

地域という言葉の使い方について、地域経営という言葉も含めて考えたいと思います。

(副会長)

自主自立の協働によって出来上がってくることで、市政経営をやっつけようということ。つまり、地域が自立して地域経営をする。そこに協働するのが市政経営です。これからは地域経営を巻き込んだ市政経営ということを言いたいわけです。

(会長)

もちろん地域の中で、自主自立していくという部分もあるでしょうが、持続可能な財政という意味で自主・自立とした部分もあると思います。いずれにしても整理する必要がある。

(委員)

1番と4番の書き出し部分について、「市民一人ひとりが互いを尊重し認め合い・・・」というところが被っているように思う。5つの基本目標の項目立てしているのに、要するに体が健康なことと、心が健康なことが大事だと言いたいのではないか。もう少しうまくすみ分けができないか。

(会長)

ここに関しては、ニュアンスが違う部分がある。1番は老いも若きもという世代間の尊重という考え方。4番の方は、教育のことが中心に書かれている。フラットな関係での、同級生同士だとか同じサークルに参加する同士だとかがお互いを認め合うといったこと。どちらも大事だと思う。

(委員)

しかし、最初の出だしが一緒というのはどうか。同じものがまた出てきた感じがする。それと、1から4番で「誰もがいきいきと・・・」や「誰もが自然に・・・」など、この“”誰もが”という言葉は略してもいいのではないか。強調したいのですが、全てにあると何の強調にもならないのではないか。文章を無駄に長くしている原因になっていると思う。

(委員)

私は、4番は教育委員会に大きくかかわる部分。1番については、保健福祉医療と理解している。そのあたりの違いをはっきり出したらどうかと思う。

(会長)

私自身が意見を持っていたのは、「支えあい健康で生きいきと暮らせるまち」という基本目標に、「保険・福祉・医療のネットワークづくり」など3つの基本施策があるが、その下の「子育て」や「健康づくり」や「高齢者福祉」が基本構想ではわかりづらい。例えば、若いも若きもといった部分を打ち出していったらとも思う。

(委員)

2点あります。

最初に2番の3個目の丸の、「魅力的な都市環境の形成と快適な生活環境の維持に取り組みます」について、さらには今日配っていただいた基本計画骨子案の3番の交通計画で、鉄道、バス、自転車云々とあるが、名張市は歳をとると住むには厳しい町だと思う。交通手段や自動車があつてこそ快適に暮らせるのであり、長期計画としては公共交通網の構築を考えてもらいたいと思う。市として公共交通をどうしていくかを考えないと、高齢社会だけでなく若い人を呼び込むにも、車がないと立ちいかなると思うので、公共交通という言葉をどちらかに入れてほしい。

もう一つは、教育です。4番のところで「生きる力を育む学校教育に取り組みます」とあり、基本計画には色々と書かれていますが、少しわかりにくく、また、もの足りないとも思う。

(会長)

委員からご意見いただいた2点について、1点目の公共交通網の整備、構築といったことに関しては、基本計画の中で位置付けていかれることだと思います。構想に全てを入れだすと膨らんでくるので、理解をいただきたいと思います。事務局も一生懸命聞いていただいているので基本計画の具体的な中で取り組まれると思います。

もう一点の教育のところですが、生きる力を育むというのが分かりにくいというご意見ですが、どういう言葉なら分かりやすいという提案はありますか。

(委員)

教育環境の整備をしてもらいたいという事が前提にある。快適に暮らせるまちのところで、安全で安心のまちづくりに取り組みますと被りますけど、未だ通学路とか整備されていないところ、危険なところを、公立ですから決められた通学路を、事故と隣り合わせで通っている。そういうところをまず整備すべきではないのかということです。子どもは宝ですので市全体で、そういう姿勢を出していただきたい。生きる力を育む教育より前に教育環境ではないかと思う。

(会長)

2番の公共交通網の整備とも絡んできますし、安全安心な通学路の確保という点について委員は特に強調されたいということですね。構想そのものに、今いただいた文言を全部盛り込むのは難しいかもわかりませんが、基本計画などもう少し具体の取組レベルでしっかりと検討いただくことになるでしょう。

(委員)

よろしくをお願いします。

(委員)

今、総合計画と併行して28年から10年間の教育ビジョンを策定しています。その中で具体的内容に踏み込んでいて、通学路についても直近で解決しなくてはいけない案件として動いていま

す。調査委員会も作り、随時ホームページでも発表している。それらも参考にさせていただきたいと思います。

具体計画の策定や進捗管理はそれぞれ専門的な部署、分野で検討していただいていると思いますが、どこに進んだらみられるかというようなフローというものがあればと思います。そして、それがこの基本計画につながってくると思います。興味を持ったことに、市民の皆さんがどこに問い合わせをしたら、どこを見たらよいかという筋書きができたほうが良いと思う。

(委員)

中学校給食も行われてないので、基本計画に入れていただきたいと思います。また、その際には地産池消や地元の農業振興の観点から是非とも地元の食材を使っていただきたい。

(委員)

中学校給食については、かなり具体的に進んでいます。ご意見をいただきながら進めているということでご理解いただきたい。

(委員)

細かい部分ですが、5つのまちづくりの基本目標について、17ページと19ページの体系表で違いがある。例えば、3番のタイトルが「活力に満ちた・・・」と「活気に満ちた・・・」で違い、2番の一つ目の丸の表現が違ったり、同じく2番の「魅力的な都市環境の形成」が「都市環境づくり」になっていたり、その下の「快適な生活環境の維持」が「生活環境づくり」になっていたり、「市民文化の振興」が「創造」になっていたりするが、できれば統一したほうが分かりやすい。

また、体系表では、「生き生きと働けるまちづくり」となっているが、この表現だと世代に関係なく生涯現役で働ける機会があるような、ほのぼのとした生活をイメージしてしまうが、やはり若い人を定着・定住していただくことを今回かなり問題としているので、もっと生活の支えになるような雇用対策、就業支援の方の表現を取ってもらったほうがしっくりくると思います。

また、もう1点ははっきりイメージができないのが、4番の「市民文化の振興」ですが、ここで言う“市民文化”とは具多的にどういうイメージしたらよいのでしょうか。

(事務局)

「市民文化」の分野については、現行の理想郷プランでは、「文化資源」「市民文化」「文化交流」の3つの施策を設けています。具体的には、文化芸術活動の振興、文化施設の充実、文化財保護調査の研究、文化資源の整備活用、市史の編さん、文化交流や国際交流の推進があり、これらをまとめて市民文化と位置付けている。新たな総合計画では、「市民文化の創造」を基本施策とし、「文化振興」というひとつの施策にまとめることとしています。

(委員)

安心で安全なまちづくりについて、基本計画で「防災・減災」という項目を上げてもらっている。でも、三重県内の多くの市町と名張との違いは津波の心配がほぼないということであり、まあ、ダムが崩壊したら津波のようなことが起こるのかも知れないですが、海から離れているので津波という点では大丈夫だろう。地震にしても土砂崩れにしても水害にしても絶対にといいことはないが、今までのところ他の地域よりも大きな災害は少なかったように思う。

問題になっている東南海地震が発生した場合でも、名張の被害は沿岸部に比べても少ないと思われる。市長も色々なところでそう発言されている。加えて、自分たちが非難するというよりも沿岸

部の人を受け入れて支援する側に回るのでよとも言っておられる。ですので、他地域から移り住んで来ようとされるときに、そういった災害がほぼないことは強みになると思う。ですので、総合計画だけでなく、別のどこかでも入れていただき市外の人にPRもして欲しい。

また、逆に、そういった恵まれた条件で育ってきているので、危機意識が弱いというのは名張市民の弱点でもある。そういう意味では危機意識を、高めてもらうことにも力を入れるべきと思う。

(副会長)

危機意識がないとはとんでもないことですよ。錦生地域は砂防法適用の第1号を受けており、震度7ぐらいの地震が起ると、165号線の黒田橋から向こうの山側は全部崩れます。地域の人みんな大変危機感を持っている。防災訓練で炊き出し班がどれだけのことをやっているか。危機管理室に頼んでも、名張市は金がないのでコンロひとつも買ってもらえない。テントひとつ張れない。逃げるところもない。宇陀川の水位が越して来たらどうするかというぐらいで、冗談も少し入っていますが、危機管理がないというわけではないです。

危険なところは、地域や各担当で分かっていると思うので、あまり細かく書くよりこれくらいでいいのではと思う。15地域で自主防災体があるわけで、その水準を上げることで皆が安心して暮らしていけるようにすることが大事だと思います。

市民文化の意見があったが、精神を育てるのは道德教育だが、魂を育てる歴史教育とよく言われている。先日、名張郷土資料館が錦生にできました。縄文時代からある名張市の歴史を展示していただいている。多くの市民の方に来ていただいて、名張市がどのように発展して来たか、先人の努力はどのようなものがあったのかということを確認し先人に感謝いただいたら、名張に郷土愛ができてくる。その郷土愛をつくるのは、文化の振興だ。だからここに書いてあると理解している。

(委員)

こうしてお話を聞くとわかるんですけど、書いてあることを読んでも分かりにくいのです。

(副会長)

もう少し、わかるようにしていただけたら。

(会長)

4の文章のところで「魅力ある新しい名張文化の創造により・・・」という表現がある。例えば郷土愛を育てるとかを入れるとかですね。

(委員)

機会があったら、市長に名張は安全ですからとあまり公言しないように言ってほしい。

(委員)

産業の種類について、第一次産業をもう少し書いたらどうかと思うんですが。

(会長)

そのあたりは、たぶん基本計画ぐらいのレベルかなと思います。

それでは3つの重点戦略の方に移らせていただきます。この部分の書き方についてはどうでしょうか。基本目標、基本施策が戦略と関わってくると示されているが、3つのプロジェクトの構成とか表現について、ご意見等々お願いします。

(委員)

3つの重点戦略はどういう切り方なのか。若い子どもさん向け、青少年、壮年か。

(事務局)

元気創造というのは、産業の振興と雇用対策、そして名張市のPRです。若者定住プロジェクトは、20～30代をターゲットにした子育てや教育、住宅支援といった定住を促していく取組。そして生涯現役プロジェクトは、これから段階の世代が一挙に高齢者になっていく中、いつまでも健康で活躍できる社会の構築を目指した取組というコンセプトとしています。

(委員)

老・壮・青と切ったらよくわかるのに、元気プロジェクトは全体にかかっている。しかし、若者、生涯も、縦に通して全体にかかっていると思う。元気を先に持ってこようということかな。切り方がよくわからない。市では色々な計画があるので、どこかでまとめて整合性を取るべきで、例えば、先ほど出た“地域”という言葉も何を指すかを統一しないと計画がわかりにくくなる。

(会長)

3つの重点戦略は、名張の産業が活性化して働き口を確保しないと若い人を呼び込めない。だから最初に元気創造プロジェクトを理解している。

(委員)

タイトルを地域産業としたほうがよいのでは。そして文章の中で、地域産業頑張っ、地域の元気を創造しますと。最後に締めたらどうか。地域産業の振興とか。

(会長)

今までの話からすると地域は15の地域づくりとかで使っているのもむしろ逆ではないか。

(委員)

そういう意味ではなく、産業という言葉が最初に出したらどうかということ。地域産業でなくてもよい。地域を付けるかどうかではなく、産業の振興という観点で言ったわけです。

(事務局)

各プロジェクトの取組については、今、これと同時に策定を進めている『まち・ひと・しごとの総合戦略』において細かく定めていくこととしています。あくまでプロジェクトの名称は、この“元気創造プロジェクト”ということを進めさせていただくとして、地域産業の点については、基本計画や総合戦略で色濃く出していけたらと思いますのでご理解いただきたい。

(委員)

横串の部分をきっちりと整理した中で、もっていかないとバラバラでは駄目。

(事務局)

総合計画、総合戦略ともに私ども総合企画で担当し、考えを整理して進めています。縦串、横串の話ですが、我々なりに精一杯そういった観点も含めてこの構想をつくっているつもりです。ご意見としてお受けし、今後の作業の中で参考にさせていただきたいと思います。

(委員)

よく分かりました。理解しました。

(会長)

3つの重点戦略の方向性についてはご理解いただけますでしょうか。

(委員)

施策体系の重点プロジェクトの縦串に星マークがついているが、星が付いていないところはや

らないのかなどの印象を持ってしまう。

(会長)

星が付いてないことで軽視されてしまうという感じがあるということですね。

(委員)

何もしないとの誤解を招いてしまうのでは。

(会長)

19ページ重点戦略の部分に関しては、誤解を与えないよう少し説明を加える必要がありますね。

(委員)

星を抜くのもひとつ。縦串、横串とで総合的に施策展開するというイメージとしたらどうか。

(会長)

基本計画骨子案の3ページの体系表の右側の枠で黒く塗られている施策は、まさに星マークのところですね。星マークには意味がありまして、ここを重点的にやっていきたいということですね。

(委員)

子育てなんか全然重点的にやらないのでは、美しい自然に囲まれ快適に暮らせるまちは、ちょっと住宅環境を整備するというだけで、後は全然しないということでは。

(委員)

基本計画で示せば良いことで、上位の構想に書く必要はないのではないかと。

(会長)

私は、違う意見ですが、一番上位の構想で星印を付け、向こう10年間の重点事項を前面に出したいという思いがあるのではないかと思います。

(委員)

基本計画でブレークダウンしていくことになっているので、あえて、ここで星印をなくしても良いのでは。私の考えです。ここでは縦と横を通して道順をつくりましょうと。

(委員)

結論から言うと、星印を入れるのは賛成です。僕は、序章でも総則編でも本当にしがみついてもやるぞという部分を強調して、若者定住をなぜ一番に入れへんのかと思う。

(委員)

みんなできへんから、絶対やるというやつを思いっきり書いたらいい。ということで、この表でも重点に取り組むものとそうでないのを示したらと僕は思う。その順番についても、最初に大事なところから書いたらと思う。

(会長)

ここは、どちらかというとなりの部分かなと思う。

(委員)

若者定住促進プロジェクトの文章を読むと、今いる若者だけでなく、他から引っばってくるというところ、また、来たものは逃がさないというところも書いたらどうか。もっと極端な言い方すれば、他から若者探して、引っ張って来ると。

それから、生涯現役プロジェクトで年寄り元気であって、時間が余ったら何かの担い手になり

やと書いてあるが、僕は逆やないかと思う。年寄りも地域の担い手になれ。その結果、生きがいになるで、というほうが良いと思う。意味は一緒ですが。

(会長)

つまり、若者定住促進プロジェクトで、住んでみたいと書いているけれど、これでは不十分、弱いということで、もっと若者から選んでもらえるなどの表現にしたほうが良いのではとの意見ですね。また、高齢者こそが地域社会の担い手であるとの側面をもう少し強調したらということですね。

(副会長)

重点戦略なので少し荒く書いていただきたらと思う。若者定住促進への意見は僕も賛同できるが、生涯現役では、高齢者がやれる範囲のものとやれない範囲のものがある。確かに、高齢者は大変重要な位置付けです。この方がおられるから今日がある。その馬力はもう一度再構築していただけるような施策を持ってくる。それによって、活動していただくということで生涯現役というテーマが出ていると思っています。それぞれにあった目標を作って欲しい。

(委員)

国の生産年齢人口にこだわることはない。いろんなことが生産であり、それはあらゆる世代がやるんやから。生涯現役というタイトルはいいと思っている。

(会長)

話を戻すと、施策体系表について両方の意見があるが、他の委員の方はどのようにお考えですか。

(委員)

5つの基本目標と3つの重点戦略が密接にリンクしていることが分かりやすく示すことがポイントとなるのであり、私はそんなに違和感はない。

(会長)

星が付いてないところはしないのかと思われぬ工夫は必要だと思います。特に②の美しい自然に包まれ快適に暮らせるまち、ということでも、先ほど意見にあった通学路や公共交通網の整備にも絡んでくるでしょうし、そういうことも含めて総花的に全部やるけれども、お金の問題とかもあって、星のところは重点的に取り組むということを解説文に付け加えてはと思うがいかがでしょう。

(委員)

施策推進にプロジェクト制を導入してやるということは問題がないが、市民から見たときに、印の無いところはどうやって推進するんですかということです。星は特A、無印のところはA・B・Cという見方で、予算配分もこういう形にして行くということですね当然。何事も総花的、総括的にすることは無理があるから、重点志向をもってというのがプロジェクトですから、その辺だけ整理しておく必要がある。おそらく市民も関心深いところですから。

普通、長期総合計画の中に、重点施策の言葉を入れるのが正しいか、正しくないかを議論しておく必要があり、通常はあまりないのではないかと思います。これで結構ですけど違和感があった。

(委員)

私は2番の「自然に包まれて・・・」が重要と思っている中、星が全く付いていないのは逆の意味でインパクトがあった。重点戦略に何故ここが抜けているのかと思った。どう解説しても視覚的

な問題であり、表を見た時に星が無いのはどうかと思う。こじつけになるが、「環境負荷の少ない社会の創造」などは、若者へのPR度はすごく高いと思う。名張は自然豊かなのに、あえてここで外さなくてもと思った。星を全部つけてもいいのではという気持ちでいてほしい。

(委員)

どこに星を付けるかというのは、今後名張市はこう大きく変わるんだとのアピールにはなる。

(委員)

星が付いていない項目も並列で進めるが、星が付いているところがより重点という意味ですね。

(委員)

「より」ってことですね。

(委員)

逆に言えば無印のところは後回しってことですね。だったら、このまま通ってしまったら、私、委員やってたのになんだろうとなる。私は、2つ目の基本目標は重点的にしてほしいと思います。

(委員)

僕は、関心のある項目は5つの中に無い。「美しい自然に包まれ・・・」というのは大事だと思うが、5つに分けるとそれぞれがそうだなあと思う。快適や魅力より先に、もっと地面の話があるやろというので、星はいいやって思ってたが、それ言い出したら変わってしまうから。

(副会長)

事務局に質問ですが、生涯現役というのは最近市長も言い出して、高齢者の方も再度元気を出して、構築していこうという生涯現役は素晴らしいことです。重点施策を見たら、生涯現役の人は福祉をしたり、病人の手当てをしたりというイメージだが、そんなものではないでしょう。ちょっとニュアンスが違うのではないかという気がしている。保健福祉医療ネットワークづくりや地域福祉の充実に重点の星を打ってあるが、生涯現役の方々がするのではないだろう。福祉の充実は、若いものがやったり、業者がやったりできることと思っている。

生涯現役の人は、安全のまちづくりや、人を大切にする社会の創造に力、地域産業の振興に力を入れていただくとか、高齢者の方々の活力が湧き出てくるところと違うのか。

(委員)

名張市は、介護を地域づくりに委ねているので、その担い手になって欲しいという思いがここに表れていると思った。否定的には言いたくないが、本当に自らできることはやろうというのと、仕事として与えられてやりなさいという風にいわれて、交付金もらって地域でやってねは違うと思う。

地域福祉というのが、そういうものであるなら荷が重いのではと思う。ここでいう話ではないが。

(事務局)

生涯現役について、保健医療とか福祉のネットワークとか、いまさら言わなくてもいいのではないかと意見をいただきました。地域医療も仰るとおりかと思えますし、高齢者福祉もそんなん関係ないわという方が多くみえる中で、生涯現役にはなじまない部分が出てくるのかなと思っております。しかし、ここには健康づくりがありまして、健康づくりは生涯現役に欠かせないものです。健康づくり以外はもしかしたら馴染まない可能性も出てくるので、再考の必要もあるかと思いま

す。

(副会長)

健康づくりは確かにそうで、健康だったら医療もその経費もいらない。私は働く方に利用したい。

(委員)

僕も、最初に言ったのはそこです。暇な人が何かやって生きがいになったらいいというのではなく、できる人は、年金もらっているから無給であっても現役で仕事してと、これが一番大事やと思う。結果、その人の生きがいにもなると思う。

(会長)

色々な意見が出ていますけど、方向性としてはこのままだと星印が付いていないところが軽視されてしまう、あるいは誤解を招いてしまうということですね。特に2つめの「美しい自然に包まれ快適に暮らせるまち」に関しては、私もできれば星を増やしたいと思っている。できなければ、もう少し解説をくわえ、星が付いていないがゆえに残されるのではという思いをする市民が少しでも減るように考えていきたいと思います。

(事務局)

総合計画は、総花的にやるのが本来ですが、もうそれではやっていけないところがあり、重点的な取組に絞って進めていくこととした。やはりこれから名張市として特に重点的に進める必要があるとしたのがこれら3つのプロジェクトであり、それ以外の部分は全くしないというものではございません。総合計画に掲げるということは、それぞれの分野で進めて行く必要のあることに間違いはないのですが、その全てに注力するとなると財政的にも難しいところもあります。ご心配はわかりますが、これ全て、あるいわあまり多くに星印つけたのでは意味がないと思いますし、その辺りもご審議いただけたらと思います。

(委員)

その考え方はわかります。もちろんそうだと思います。ただ、プロジェクトの切り方として、市政経営というなら、ヒト、モノ、カネで切るとか、材料で切るならスリーエムで切るだとかしないとおかしくなってしまう。3つのプロジェクトを切っている基本的な思想があると思うのだが。

(会長)

確かにわかりにくいという意見も理解できますが、名張市としてはこの3つの考えで進めていくというお考えである。

(委員)

それは分かったうえで言っている。もう変えることができないということなので理解はしますが、このへんを整理しながら推進されたほうが、より地方経営や市政経営ができる。考え方を生かすということなんで意見として伝えておきます。

(会長)

ではこのあたりで第5章「目指すべき将来像の実現に向けて」の審議を進めたいと思います。

(委員)

協働のまちづくりですが、ここでは15地域のまちづくりのことだけ書いているのでは。協働の概念はもっと違うと思うんです。商工会議所もそうですし、協働というのいうのは“新しい公”の話です。要するに行政だけじゃなく、また財政危機の面も含めてですけれど、年寄りも使わなあか

ん、あるいわ隣町ともせんなんかもわからんし、そんな沢山の協働が今一番注目されている。そしてその中でもまずは地域づくりに取り組みますという書き方をしないと、この書き方だと全て協働になっているみたいな印象がありますね。

(会長)

確かに、各種団体や市民と行政とがという結び付きだとかの部分をもう少し強調するような書き方をする必要もあるかもわからないですね。

(事務局)

ご意見に関しまして、地域づくりの取組を一例として、中ほどに掲げてあり、その部分が色濃く出ているためそういう印象をもっていただいたのかなと。あくまで事務局の考えとしましては、地域はもちろんですけれど、広く企業や各種関係団体、市民活動団体なども含めたなかで行政とのパートナーシップで取り組むという意味で書かせていただいている。行政の思いとしては、地域づくりだけということではありません。

(会長)

表現方法について、少し考えてもいいかもしれませんね。他にいかがでしょうか。

(委員)

2番は市の内部的な話のこのように思えるがどうでしょう。

(会長)

市としての目標、市職員としての目標が書かれているような感じですね。

(委員)

あんまり書いたら、今までしていなかったように思われるかな。文言やけど、総合診療医のように、何課というのでは無しに縦横無しの表現をすると分かりやすい。

(会長)

5章は目指すまちの将来像の実現に向けてどのようにやっていくかという“手段”について書かれている。1番目は市民と一緒にということで、2番は行政運営の考え方、そしてその裏付けとなる財政部分が3番目に来ているというように理解ですといいのかなと思う。

(委員)

それなら5章のタイトルに「手段」と入れるか、「に向けて」をとればと思うが。

(委員)

行政運営と財政運営とが分けて書かれているのは、財政なくして市政経営なんて無いのだから金はもっと厳しですよと、だからあえて分けることで強調したんだと思っていた。それで、行政運営なんてヒト・モノ・カネ無くしてのは成り立たないのだから最後に持ってきたのかなと思った。

(会長)

財政厳しい中で、それでも何とかやっていきましょうという、まさに第4・5章の話だっと思う。

(委員)

財政が厳しいから、生きた金にしましょうということだっと思う。生きた金にしないと意味がない。ここが行政手腕の最たることだっと思う。現実的には市民が決めることができないのだから。

(委員)

3つめの財政運営のところですが、表現自体が非常に甘い表現がされている。財政が厳しいのだ

から、厳しいと書けばよい。例えば、「市税収入の伸びが期待できない」って、減少しているわけだし。「今後も楽観視できない」って、楽観視なんでできるわけがなく、それなら今後も厳しい状況が続くと書いたほうが良い。老朽化する公共施設の維持・更新と書いてますけど、廃止はないのですか。そういうことも含め、もう少し財政が厳しことも書いておたいたほうが良いと思う。

(会長)

財政についてももう少し危機感を持ってもらう書き方にした方が良いというご意見だと思う。

(委員)

実態を書いてはということです。危機感をあおる必要はない。実態を書いて市民に冷静に判断いただくという意味です。

(副会長)

現実を書くのが良いのか、将来の夢の実現に向かって書くのがいいのか、どちらが良いかわからない。財政運営の現状を書いたら、もう止めとこってなるのではないか。

(会長)

財政厳しいですと書かれている総合計画を見て、若い人がどう思うかって話ですね。

(委員)

税金は上がると思うが、やはり現実を直視するのは大切。計画なんて温故知新だから。

(副会長)

現実ばかり書いていると悲観的になる。現実はこちらだが、こういう方向性で進める。そして10年先はこうなりますというところが書ければいいのだが。

(会長)

だいたい、そんなところでしょうか。まとめるのは難しいので、一通りその都度私なりにこういう風な形で、話し足りない点があれば。

(委員)

財政が厳しいということは市民の人にも知ってもらわなくてはいけないことだし、オブラートに包んではいけない。現実がストレートに入ってくるような言葉使いで書いてほしいです。例えば、3番のところで「補完性の原則に基づく市政運営に努めます」と言われても、普通の人は何のこととかわからない。できるだけ行政用語、専門用語を使わずに書いていただければと思います。

だけど、2つめの項目にあるように、市の職員は少しでも良くするように頑張ってますし、その上で、市民の人や団体、地域の人達はこれからは行政だけに頼るのではなく、皆でできることは皆でやりましょうと、民でやれることは民で頑張ってください、住民ができることは住民が頑張ってください。行政はその支援をしますと、その枠組みを市が作りますよということで、皆で健全に住み続けたいと思う名張市をつくっていきましょうという形で、希望的観測を持ってまとめてほしいと思います。

また、全体的には私は最初から言っていますが、文書が長く難しいため、なかなか中身が頭に入ってこないというのが印象です。

(会長)

最後、うまくまとめていただきました。これまでいただいたご意見を、反映できる部分は反映させる形で次回新しい案をご提示させていただきます。今回はその案に対して2時間ほどかけて、一

通り意見をいただき、パブリックコメントに向けての最終案という形でご審議いただきたい。

本当に必要な部分は修正をかけることもあります。基本的には修正案にご理解をいただきながら進めたいと思います。

(委員)

次回そういうことであれば、文言修正などの意見があったら次回に持ってくるということ。

(会長)

今までの意見をまとめて、新しい素案を作って、それを次の会議に出したいと考えていますが、事務局としてどれくらいにまとめられますか。

(事務局)

修正については会長に指示をいただきながら行い、次回までに一通り目を通していただくように考えていますので、出来るだけ早くに委員の皆さんにお送りしたい。

もし、細かい文言のところで、現時点でお気づきの点があるならば、この場もしくは、これから会長とともに、これまでの意見を踏まえて修正していく間にお示しいただきたい。

(委員)

つまり、次回の7月3日に持ってくるのではなくて、意見があったらその日までに何らかの形でお送りしたほうが良いということですね。

(事務局)

大きな方向性への意見は、個々にお受けする訳にはいかない。大きな方向性はここで議論のうえ審議会の意見としていただきたい。修正した資料は6月中には送らせてもらいます。

(委員)

市にはいろんな計画がありますよね。その相関関係がわかるものはないか。

(事務局)

基本計画の各施策のページに、その施策にぶら下がっている計画を、計画期間も含めて示していくつもりです。そうすることで、この施策の具体の行動計画はここに書いてあるんだなあとわかっていただけたらと思っています。

(会長)

次回、各計画の相関図みたいなものをいただけると。総合戦略を含めて、どのようなつながりになっているのかが分かるものがあるとありがたいです。

次回は、7月3日の午後2時からとさせていただきます。長時間の審議ありがとうございました。

3. その他

特になし